



二 中 だ よ り

さ と く う つ く し く た く ま し く

天童市立第二中学校だより 第7号 令和7年9月5日 文責：校長 五十嵐由美子

何に注目し どのように考え そして 何をするか … 2学期始業式 校長講話

31日間の長い夏休み、みなさんはどのように過ごしたでしょうか。

大会を目標に黙々と練習に取り組んだ人、毎日こつこつと勉強に励んだ人、地域でボランティアとして活動した人、普段できないことに挑戦した人、家族や親戚の人とたくさん話をした人、皆さんそれぞれの夏休みだったと思いますが、終業式でお話した「自己調整力」は高められたでしょうか。

さて、皆さんの中で、全国高等学校野球選手権大会、通称「夏の甲子園」をテレビやニュースで見た人もいます。

この夏、最も注目を浴びた選手の一人に、準決勝まで勝ち進んだ岐阜県立岐阜商業高校の横山温大(よこやま はると)選手がいます。横山選手がなぜ注目を集めたのか。横山選手は生まれつき左手の指がありませんでした。甲子園でのプレーを見ていると、守備の時は、右手にはめたグローブでボールをキャッチすると、すぐにグローブを外して左手に持ち替え、そのグローブからボールを取り、右手で投げていました。よく見ないとグローブを持ち替えたことがわからない程の速さです。バッターとしてボールを打つ時は、右手でバットを握り、左手を沿えて力強くボールを打っていました。

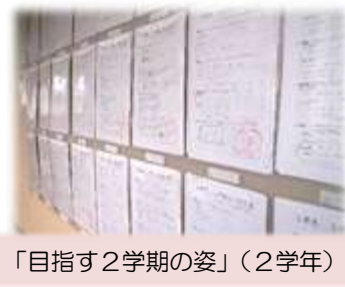
横山選手は小さいころから弱音を吐くことがなかったそうです。縄跳びをする時は、左手の手首に縄を巻き付けて跳んでいたそうです。兄弟の影響で野球を始め、お兄さんの試合を見に行き負けた時はとても悔しがり、家に帰ってから自分が猛練習をするほどの負けず嫌いだったそうです。横山選手はインタビューでこう話していました。「練習も、自分は他の人と感覚が違うので、自分で工夫をしてきました。どうしても右に負担がかかるので、鍛えました。」横山選手の右手のひらには固いマメがたくさんできていました。

人はとかく、自分にはないもの、足りないもの、弱いところがあると、それを嘆いたり、落ち込んだり、ひがんだり、誰かを恨んだりしがちです。しかし、横山選手はそうではありませんでした。左手の指がないのなら、右手で、そして、誰よりもその右手を鍛えて、大好きな野球を続けてきたわけです。自分で考えて、工夫して、努力して。試合の後、「ハンデがあっても、ここまで来られることを示すことができた」と語っていました。

「ないもの、できないこと」に注目して落ち込んだり不平不満を言ったりするよりも、「あるもの、できること」に注目して、自分で考え工夫してそれをカバーする。毎日の生活の中で、自分の思い通りにならないことに直面した時、何に注目し、それをどう捉えるかで、感じ方はまるで変わってきます。できることは何か、どんな工夫ができるか、そんな風に考える方が何倍もわくわくしますね。

これから始まる2学期、日々の生活や学習、クラスみんなで取り組む合唱、生徒会活動、3年生が引退し、2年生での活動が始まった部活動、など様々なことがあります。そして、3年生にとって2学期の最後には進路を決める大切な時間でもあります。その中で、うまくいかなかったことがあった時は、いったん立ち止まって、何か他にできないことがないか、どんな工夫をしたらよいか、考えて、話し合っ、そして更に良いものにしていきましょう。

自分で自分を、そして、自分たちで自分たちを 更に成長させる2学期にしていきたいと思います。



「目指す2学期の姿」(2学年)

*** この夏の大会記録 暑い中でも頑張った 二中生! ***

【山形県吹奏楽コンクール】

□吹奏楽 奏Club（天童一、天童二、山形七） 中学生の部 銀賞

【全国中学校総合体育大会】

□陸上競技（沖縄市） 共通男子1500m 予選第13位 ○○○○

【東北中学校総合体育大会】

□水泳（秋田市） 女子 200m個人メドレー 予選 第12位 ○○○○
女子400m個人メドレー 予選 第8位・決勝 第8位 ○○○○
□陸上（福島市） 共通男子400m 予選第8位 ○○○○
共通男子800m 予選第10位 ○○○○
共通男子砲丸投 決勝第12位 ○○○○

【第64回天童地区少年の主張大会】

最優秀賞 ○○○○（ブロック大会へ） 演題「私もあなたも主人公」
優良賞 ○○○○ 演題「『空気を読め』なんてバカバカしい」

【東南村山地区中学生英語弁論大会 スピーチの部】

学校代表 ○○○○ Title: Our Pride, My Pride

他にも、珠算、将棋、硬式野球、女子野球などをはじめ、様々な外部活動で頑張った二中生の活躍がありました。

また、この夏休み中に、天童北部公民館の市長タウンミーティングの運営ボランティア、児童クラブのお姉さん先生、中学生 MY ボランティアスキルアップセミナーに参加して学童や保育、福祉のボランティア、天童の街のゴミ拾いボランティア等々、たくさんの二中生が積極的に地域の活動に参加していました。

そして、夏休み中も学校の自主学習室に通って、集中して受験勉強に取り組んでいた3年生の人たちもいました。



10/4の県駅伝大会に向けて走り込む 駅伝男子チーム

少年の主張大会では、ある言葉がきっかけとなって自分自身が大きく変わった〇〇さんと、ニュージーランドの学校生活体験がきっかけとなり考え方が大きく変わった〇〇さんが、英語スピーチコンテストでは、米作りをしている祖父の姿をきっかけに、現在の農業の問題点や和食文化を支える米の重要性について考え〇〇〇さんが、市民文化会館や遊学館のステージ上から、自分の考えを堂々と聴衆に伝えていました。夏休み中も登校し、練習に励んだ成果を十分に発揮していました。

学校生活の中でも、学校を離れた場でも、ちょっと気になったことや興味を持ったことに、思い切って飛び込んでみましょう。勇気を出して挑戦していくことで、自分の世界がぐんと広がります。「将来何をしたらいいかわからない、自分が何に向いているのかわからない」という人はぜひ、いろんな事をやってみる事です。その中で何か、もっとやってみたい、もっと深く知りたいと思うことが見つかるかもしれません。「きっかけ」は意外に身近なところにあるもの。まず、やってみよう！